

「課題名： 周術期消化器腫瘍患者の入院中の身体機能の後ろ向き調査」について

○ 研究の意義・目的

周術期消化器腫瘍では手術の後、短期的に生活の質が低下することが報告されています。また、術後体力の低下が生じることが報告されています。しかし、筋力などの運動機能(筋力、歩行能力など)についての術後の変化については明らかではありません。そこで、消化器腫瘍患者さんの運動機能を調査し、不十分な点を明らかにすることで退院後の運動プログラムの作成に役立てることを目的としています。

○ 研究対象者

平成27年4月1日から令和6年3月31日までに、消化器腫瘍の手術の為に入院され、広島大学病院リハビリテーション科で理学療法を受けられた18歳以上の患者さんを対象とします。

○ 研究方法

- カルテから転記する内容は患者背景として年齢、性別、身長、体重、疾患名、生活歴（飲酒・喫煙）、既往歴、投薬、入院期間、手術日、術式、出血量、手術時間、術後合併症、在院日数、血液検査データ（総リンパ球数、アルブミン、総蛋白、ヘモグロビン、空腹時血糖、インスリン、HbA1c、CRP、T-Bil、AST、ALT、腫瘍マーカー、e-GFR）、リハビリ関連項目（リハビリ時間、プログラム内容）、握力、下肢筋力、バランス能力、6分間歩行距離、体組成、身体症状（吐き気、倦怠感、生活の質等）の有無です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 試料・情報の管理責任者

広島大学病院リハビリテーション科 教授 木村 浩彰

○ 研究期間 平成29年6月16日（委員会承認後）～令和7年12月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5566

広島大学病院リハビリテーション科 教授 木村 浩彰（研究責任者）

理学療法士 中島 勇樹（担当者）